

読

Yomiuri
Nippon
Symphony
Orchestra

響

なんと静かで熱い夜
地球に穴を開け、月まで吹き飛ばせ!
ドイツの気鋭マエストロと名手が競演

ヘフティ:変化(日本初演)
HEFTI: Changements (Japan premiere)

ベルク:ヴァイオリン協奏曲
「ある天使の思い出に」
BERG: Violin Concerto
"To the memory of an angel"

ブルックナー:交響曲第2番
八短調 WAB. 102 (1877年稿/ノヴァーク版)
BRUCKNER: Symphony No. 2
in C minor, WAB. 102

Conductor
CORNELIUS MEISTER

ウィーン国立歌劇場やミラノ・スカラ座などで
活躍するドイツの気鋭マエストロ
コルネリウス・マイスター 首席客演指揮者

ベルリン・フィルやシカゴ響などと共演する
現代最高峰のドイツの名匠
クリスティアン・テツラフ ヴァイオリン

©Marco Borggreve

Violin
CHRISTIAN TETZLAFF

読売日本交響楽団 第595回 定期演奏会

2020 **2.28** 金 19:00 サントリーホール

S¥7,600 A¥6,600 B¥5,600 C¥4,100

Subscription Concert, No. 595 / Fri. 28th Feb. 2020 19:00 / Suntory Hall

読響チケットセンター 0570-00-4390 (10時-18時・年中無休/12/27-1/3を除く)

<https://yomikyo.or.jp/>

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力: アブラック

俊英マイスター × 名匠テツラフ 奥深いドイツ音楽の魅力に迫る!

首席客演指揮者

コルネリウス・マイスター

Conductor= CORNELIUS MEISTER

オペラとコンサートの双方で活躍するドイツ期待の若手指揮者。2017年4月から読響の首席客演指揮者を務め、同ポストを20年3月に退任する。1980年ハノーファー生まれ。ハイデルベルク市立劇場の音楽総監督やウィーン放送響の首席客演指揮者兼芸術監督などを歴任。18年9月からシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督を務めている。ロイヤル・コンサートヘボウ管、バイエルン放送響、パリ管、ベルリン放送響、北ドイツ放送響、バーミンガム市響など世界の一流楽団と共演。オペラでは、メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、英国ロイヤル・オペラ、バイエルン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、チューリヒ歌劇場などで活躍している。

コルネリウス・マイスターが、3年間務めてきた首席客演指揮者としての最終公演を迎える。2014年に読響と初共演し、2017年4月から首席客演指揮者として、マーラーやR.シュトラウス作品などでしなやかな指揮を見せてきた若き名匠は、2020年3月に同ポストを退任する。現在はシュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督として腕を奮い、欧州で活躍する彼の新たな門出となる。

今回、マイスターが選んだプログラムは、読響とは初となるブルックナー作品を軸に、ベルクと現代音楽の最前線にいるヘフティの作品を並べたもの。

メインは、マイスターが読響との演奏を熱望したブルックナーの交響曲第2番。1872年、ブルックナーが48歳で残した4番目の交響曲で、ブルックナー・ファンからも秘かな人気を集めている曲。ブルックナーの独特の崇高さや幻想性が感じられ、歌謡性に満ちた旋律や新たな時代を感じさせる和声が特徴だ。マイスターは、独自の視点でスコアを読み込み、この作品から新たな魅力を引き出すことだろう。

前半は、まずスイスの現代作曲家ダーフィット・フィリップ・ヘフティの「変化」を日本初演する。1975年生まれのヘフティは、その作品がルツェルン音楽祭やウィーン・モデルンなどで取り上げられ、バイエルン放送響やベルリン・ドイツ響などで初演されている注目の作曲家。2011年に作曲された「変化」は、マイスターへ献呈されたもの。絶え間なく移りゆく気分や雰囲気が、独特のサウンドで表されている。

また、ベルクのヴァイオリン協奏曲「ある天使の思い出に」では、世界的なドイツの名匠クリスティアン・テツラフがマイスターの呼びかけに応じ、この1曲だけのために来日する。最晩年のベルクが18歳で急死したマノン・グロピウスのために捧げた渾身の傑作を、円熟期を迎えているテツラフのソロで聴ける絶好の機会だ。知性と創造性を兼ね備えたテツラフは、マイスターと共にベルクの奥深い世界へと誘うだろう。

ヴァイオリン

クリスティアン・テツラフ

Violin= CHRISTIAN TETZLAFF

現代最高峰のヴァイオリニストの一人。1966年ドイツのハンブルク生まれ。ミュンヘン国際コンクール第2位以来ソリストとして、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンサートヘボウ管、ロンドン響、ボストン響など世界の主要楽団と共演。通常レパートリーはもちろん、同時代作品の演奏にも力を入れている。2020年はサロネン指揮フィルハーモニア管とベルクの協奏曲を弾くほか、ソヒエフ、ノセダ、エッセンバッハらの指揮のもと、ベルリン・フィル、ロンドン響などと共演する。テツラフ・カルテットをはじめとした室内楽でも先鋭的な活動を続け、録音も多数。ドイツのヴァイオリン製作者ペーター・グライナーが手がける楽器を使用している。



©Giorgia Bertazzi

読売日本交響楽団 第595回 定期演奏会

2020年 2月28日(金) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。あらかじめご了承ください。■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

*10時-18時・年中無休/12/27-1/3を除く

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

チケットぴあ 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017